



HEART to HEART
tea time

夫の立場としての治療とは 』

〈Kさん〉

だめだった時の妻の顔を見るとどのように対処してよいのか困る時もある



日本人の十人に一人が、不妊で悩んでいると聞いたことがあります。結婚をして八年目を迎えようとしている私達夫婦にとって、この問題は深刻であり二人で力を合わせて治療を受けております。

妻が子宮内膜症で苦勞していること、そして子どもがでにくい体であることは、結婚前から承知しておりました。それでも、結婚して二・三年はもしかしたら自然に・・・という淡い期待もありましたが、病気の進捗のことも考えて、その後不妊治療(体外受精)を行うことに致しました。

現在、治療をはじめてから四年目が過ぎようとしています。妻の負担も非常に大きく、毎回『これで最後だよ、絶対今回は大丈夫』と、がんばっている姿がかわいそうに思える時もあります。長男の嫁としてのプレッシャーもどこかで感じている事でしょう。夫としては恥ずかしい話ですが、だめだった時の妻の顔を見るとどのように対処してよいのか正直困る時もあります。

十数回にわたる治療の間には、吉川先生をはじめ看護師の皆さんには大変親切にいただき、勇気をたくさんいただきました。そして何よりも相談室には大変お世話になっており、治療を休む月でもカウンセリングを受けに行く位です。そんな日に帰宅して見る妻の顔は、不思議と明るくなっています。これからも、よき理解者としてよろしく願いいたします。

それと、最近こんな出来事がありました。私達は説明会に参加しないまま体外受精の治療を開始していました。今更ではあると思いましたが、妻の誘いに乗り説明会に出席してみたのです。すでに経験していることでもあり、その説明が非常にわかりやすいのに感心致しました。先生の強い熱意も改めて感じる事が出来て、帰りの車の中で次回に向けて、気持ちを新たに頑張ろうと盛り上がってきました。

根津院長先生をはじめ、スタッフの皆さんを信頼して19回目の体外受精に挑戦中です。二人、の夢です。夢は、信ずれば必ずかなうものだと思います。

できあがった主人の原稿を読んでみて、ここに書かれている以上に私に対しての気遣いや優しさがあるので思わず書き足している妻です。判定の日の朝、病院に向かう私に『良ければいい事だけど、もし駄目だったら今夜は残念会ね』とお酒の大好きな私に飲み会を企画してくれます。治療のお休みの月はお泊まりに連れていってくれます。健康ランド、海、ツ

アー、前々から旅行の好きな夫なのでお金をかけずに上手に楽しませてくれます。そして二人の共通の趣味が温泉。治療と一緒に行ける時は朝風呂に始まり、諏訪までの道中の温泉場にはしごです。夜9時30分の注射を諏訪マタで打つ日でも、その前にまた一風呂。体外受精直前の不安な気持ちをいくらかでもリラックスさせるのにこれまた大切な時間になっているんですよ。

説明会の話も二時間くらいはかかるらしいという言葉に長いなあと言った主人が、いざ説明会が始まると吉川先生の説明を食い入るように聞き、あつと言う間に終わった、出て良かったよホントに、と目をキラキラさせながら言うてくれました。私も診察の時とはまた違った先生を見れた気がしてうれしかったです。そんな感じでとにかく私達はまだまだ諦めません。やっぱりこの夫の支えあっての今まで、そしてこれからだと改めて感じている所です。



〈Hさん〉

夫を含め周りの期待が大きすぎて一番妻が不安・プレッシャーを感じてたことは事実

結婚して13年目でお互い40歳を超え、現在最後のチャンスだと思い諏訪マタニティで体外受精を行っています。体外受精は既に4回行い、1度だけ妊娠反応がありましたがその後の成長は止まってしまい残念でした。しかし少しは希望の光が見えてきたような気がして、また頑張っている所です。

結婚当初、赤ちゃんは自然に出来るものだと信じ神様におまかせしていました。(ちょっと表現が古すぎますね) そんな感じでなんとなく年数が経ち、5年ぐらい経ったときに「そうは言っても病院に行ってみようか」ということで近くの総合病院に行きました。医師の話によるととりあえず人工授精を10回程行って、だめなら体外受精に変えましょうという事でした。当日朝採精をし、妻がそれを持って病院に行く、この繰り返して今思えばなんて事務的な事をしていたのかなあと感じます。事実10回行ったところで妻は病院に行くのを止めました。このときはまだ体外受精までする必要はないと思っていました。妻も精神的に受け入れられる状態ではなかったようです。

それからは「自然に出来なければそれも運命、2人で仲良く人生楽しめますか」という気持ちで過ごしていました。そんな時、たまたま転勤で諏訪に來まして、さらに昨年下諏訪に引越した関係で諏訪マタニティに行ってみるか再度通院を始めました。

初診で通された相談室では、諦めない限り可能性はあるという事、同じような悩みを持った人が沢山いる事、妻より年上の方でも赤ちゃんが出来る人が居る話などを聞き少し気が楽になって帰りました。また以前に治療を行った病院は「とりあえず人工授精」という感じでしたが、諏訪マタニティの一般不妊の説明会で、私たちは人工授精ではダメ

なケースであったことを知り、ショックを受けました。私たちの勉強不足は否めませんが、悩んでいるものとしてはきちんとした情報提供や十分な説明が当初あればと思いました。

思えば、妻は私の両親や親戚、知人等からかなりのプレッシャーを受けてきたと思います。

私は何気にも言っている「最後のチャンス」という言葉でさえも、意外とプレッシャーなのかもしれません。夫を含め回りの期待が大きすぎて一番妻が不安・プレッシャーを感じていることは事実です。実際のところ体外受精を行っていることを私たちはお互いの両親に話していません。私も判定日は本当にどきどきしています。当然うまくいけばもう最高ですが、うまくいかなかった時、妻にかける言葉は「次があるさ」にしています。

たぶん、「気を落とさなくてもいいよ」と言う言葉だといったわりというよりもかえってプレッシャーになるように感じているからです。

不妊治療というと女性のことだけの様に思えますが、これは現実『夫婦二人』の話です。これからも出来るだけ、二人で病院へ行き二人一緒に頑張っていこうと思っています。

〈Kさん〉

3度目の流産を経験し、私が妻に最初にかけた言葉は「もうあきらめよう」だった



最初の妊娠は結婚してすぐでした。嬉しくて両親にも即報告し、喜んだのもつかの間、7週で出血と激痛をともない流産になりました。夜中、苦しんでいる妻の傍で私はただただ、その手をにぎっているだけでした。その時は「またすぐできるよ」という軽い気持ちでしたが、妻が生理不順ということもあつたりで次につながらず、年齢も気にしていたため病院へ通い始め、誘発剤を使った上で2度目の妊娠をしました。しかしそれも稽留流産という結果に終わり。通院していた病院への不信感もあり、友人の話やインターネットなどにより、この頃から諏訪マタのことが気になり始めていました。

私は始めどうしても子供がほしいというわけではなかったのですが、妻の気持ちを尊重した生活の中で、私自身が自分の子供と遊ぶ姿を思い浮かべるようになっていきました。「諏訪マタへ通えたらなんとかなるのかも」と仕事先で諏訪に転勤希望をだしたところ、偶然にもそれがかなったのでした。遠くから通っている方は大勢いらっしゃると思いますが、私達の場合本当にラッキーだったと思います。諏訪マタを最後の病院と決め、あきらめるにしてもやれるだけのことをやろう！と通いだした直後に妊娠。しかし無情にもまた初期の段階で流産となってしまいました。3度目の流産を経験し、私が妻に最初にかけた言葉は「もうあきらめよう」でした。

妊娠した時、流産が心配で出来るだけ私が家事を手伝い、昼休みには毎日メールや電話で様子を確認する。漢方にお金をかけたり、子宝〇〇と聞けばあちらこちらに出かけたり、私なりに精一杯妻に協力してきました。が、一方で我慢することも多く、妻の苦しみ泣いている姿も見たくない、精神的に

はとても追い詰められたつらい時期になって来ていました。

今までずっとタイミングのみの治療でやってきた私達でしたが、妻の前向きな気持ち（ときには挫折しそうになっていましたが）もあり、体外受精を視野にいれ、まずは説明会を聞こうということになりました。その後吉川先生にご相談したところ、検査をしても2人とも何の問題もなく自然に妊娠するわけだし、体外受精の必要はない（着床前診断もできない）ということでした。

それじゃあ、妻はこの先流産を何度も繰り返せということなのか、3度の流産でも、もう十分身体は心配だ、また妊娠しても出産できなければ・・・。

思い悩んでいた矢先になんと4度目の妊娠がわかりました。今までどうしても越えられなかった8週の壁。やはり今回も6週あたりで切迫流産となり入院し、また・・・という気持ちになりましたが、私にできる事はともかく祈りながら、毎日病室へ顔を出すだけ。そしてその壁を何とか乗り越える事ができ、おかげさまで現在5ヶ月に入りました。

信頼できる吉川先生、何かあれば話を聞いてもらえる相談室、その安心感は諏訪マタならではのです。

不妊治療に対する諏訪マタの熱意には心が打たれます。

これからも、まだまだ夫婦で協力し合い、今まで同様頑張っていくつもりです。

私達が不妊（流産）にこれほど悩むとは思っていませんでした。私の身内は皆、結婚したら子供が2人、3人と生まれていたし・・・子供の居る友達から『流産すると子供が出来やすくなるからすぐまたできるよ』とか『子供の行事で忙しいから』、『子供のお迎えに行かなくちゃ』、そんな言葉を聞くのがすごくいやでした。

不妊に悩むようになって初めて、苦しんでいる人が大勢いたんだと気が付き、子供はまだ？と誰かに口にしていた以前の自分を反省しました。

検診に行く日、主人は私に、現実を受け止める勇気をもとうといつも言うてくれました。子供がいなくても夫婦2人仲良く暮らせば、という話しもしていました。感情が表面に出やすい主人は、ふとした私の動作に、気をつける！俺の努力はどうなる！と言われ、時には喧嘩にもなりました。

しかし一緒に苦しんでくれることがよくわかっているので、私の気持ちとしては、頑張らなくちゃ！こうなったら出産できるまで何でも妊娠（流産）してやる、と勢いづいていました。歳はとってしまいましたが、不妊治療に関わった期間は私達にとって共に成長し、絆（愛情？）を深めた、そんな時間だった気がします。本当に主人には、よく協力してもらって感謝の気持ちでいっぱいです。

そして諏訪マタのスタッフの皆さん、ここまでこれたのは、主人だけでなく皆さんのお力があるからこそだと思っています。相談室で泣かせてもらい、入院中もお世話になり、最初は怖かった吉川先生がだんだん信頼できるやさしい先生になり、諏訪マタに通院してよかったと心から思っています。私達患者の為に24時間毎日本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いします。



〈Oさん〉

知恵と勇気を出して、自分がやれることを奥様に相談してみてもうだろう

忘れもしません。土曜日の午前中の診察に行くため、高速道路にはいったときです。大きな事故があって、インターから300メートルも行かないうちに車は大渋滞の中でストップしてしまったのです。待っても待っても車の群れは、動きだす気配はありません。このままでは診察の時間が終わってしまいます。私は、彼女の実家の父に高速の側道まで迎えに来てくれるように応援を頼み、彼女には車を降りて路側帯を歩き、降りられるところでガードを乗り越えて高速道路の斜面を下り父の車に合流して、と言いました。ガードのワイヤーを乗り越える瞬間は彼女のそれまでの人生の中で一番注目を集めた瞬間だったでしょう。手にひっかけ傷をこしらえながらも、私たちはこの日の診察に間に合ったのでした。

ぜひ、通院しているご夫婦に言いたいです。奥様だけではなく、ご主人も一緒に知恵と勇気を出し合って、やれることはみんなやってみましょう。結果がついてくるかどうかは誰にもわからないことです。それならなおのこと、やれることはやっておかなければ、悔いを残すことになる。しかも、男の協力がなかったばかりに悔いを残したとしたら、相手にすまなかったでは間に合わないではありませんか。

私たちもそれなりの事情を抱え、自然に任せていたのでは、人生の日が暮れてしまっても子どもは授からなかったでしょう。諏訪マタに行こうと提案したのも夫の私です。診察も説明会もカウンセリングルームも、できるかぎり一緒に行って話を聞かせてもらいました。そんなことは抵抗があると感じられる方も、夫である皆さんの中にはいらっしゃるかもしれない。でも男のプライドなんて、妊娠・出産には何の役にも立ちません。男にできることなんて、せいぜい車の運転と精子の提供くらいなものです。診察台に上るわけでもないし、大きなお腹を抱えて家事をするわけでもない。逆に言えば、奥様がご主人に気を使う必要はないんです。

私たちは、あの日、高速道路の大渋滞からの脱出をあきらめませんでした。不妊って、渋滞に巻き込まれたようなものです。人生の時間を気にしながら動けないことにイライラしているのですから。そうだとすれば、乗り越えるしかありません。どんなやり方を試みてどんな結果になるかは、やってみなくてはわかりません。

大きな子宮筋腫もあり、年齢的にも40代半ばというハンディを乗り越えて、彼女が初めての妊娠に至ったことは、あきらめなかった結果です。通院しているご夫婦のご主人の皆さんの多くは、きっと私以上に奥様を大事になさっているに違いありません。ですが、どう関わってよいかかわからないでいるご主人がいらっしゃれば、もう一歩知恵と勇気を出して、自分がやれることを奥様に相談してみてもうでしょう。きっと奥様だけで孤軍奮闘しているのではないと伝わるだけで、どれほど奥様の気持ちが勇気づけられることでしょう。渡辺さんのいらっしゃる相談室は私によくそんなことを考えさせてくれる機会でした。皆さんもぜひ、結果にかかわらず、お二人で相談室に顔を出されることをお勧めします。



ちょっとお茶でもいかがですか？
日頃皆さんの思っている事やつづき
やきをのせていくコーナーです。

🐾 M・Iさん 🐾

「結婚9年目にして待望の赤ちゃんを授かることが出来ました！！今でも、いろんな思いがかけめぐり子供の寝顔を見ると涙が止まりません。ここまで頑張ってきたのは、吉川先生をはじめ、共に一生懸命になってくれたスタッフのみなさんのおかげです。あきらめては、いけない。。。と、一言でいっても私も皆さんと同じで何度も嫌になりました。このとり相談室の扉を何度叩いたことか。カウンセラーさんの前で何度泣いたことか。でも、後悔するのは自分自身なのです。一度限りの人生、後悔のないようにしてください。

私はM市にある不妊治療専門の病院に6年間通院していました。人工授精、体外受精何度も試みましたが結果は同じ。しかも、OHS Sの症状が2度も出てしまい10日間の入院を余儀なくされました。副作用の影響で尿も出なくなり、胃や肺が圧迫され呼吸するのも苦しくなり、入院中はこのまま私は死んでしまうのかなーと、思ったりしました。今思えば、そこでの採卵はかなり痛かったにもかかわらず受精卵の出来がかなり悪く凍結保存をする度に壊れてしまったりでした。こんな辛い治療に耐えるのはもう止めよう！途中からは、主人も見てるのが辛いと言うようになり半分諦めかけていました。

そんなある日、主人が何かで諏訪マタの情報を調べて来てくれて、その時の私は正直迷いがありました。また一からのスタートかあ、と。でも思いきって諏訪マタに転院をした所、なぜだかいろいろなことに前向きになれました。ジムに二人で通ったり、犬を飼ったり、旅行へ行ったり。カウンセラーさんには体脂肪を減らす方法まで考えてもらったり。今思うと楽しい思い出です。

諏訪マタに来てすぐに体外受精から始めました。すると、今までのことがウソのように受精卵も多く出来てしかも凍結保存をしても状態は良好でした。すぐに妊娠反応がでましたがその時はダメでした。が、諏訪マタに来て半年ちょっとで今回の妊娠、出産となりました。この秋には主人の仕事の都合で少し遠いところへ行くことになりこれからまた忙しくなりそうですが家族で力を合わせて頑張っていこうと思ってます。そしてまた、何年後になるかわかりませんが第2子がこの手で抱けるように・・・その時まで、吉川先生、スタッフの皆さん、もちろん相談室、変わらないでくださいね！